

## 演習4-6 探索(サーチ)⑥ (オプション)

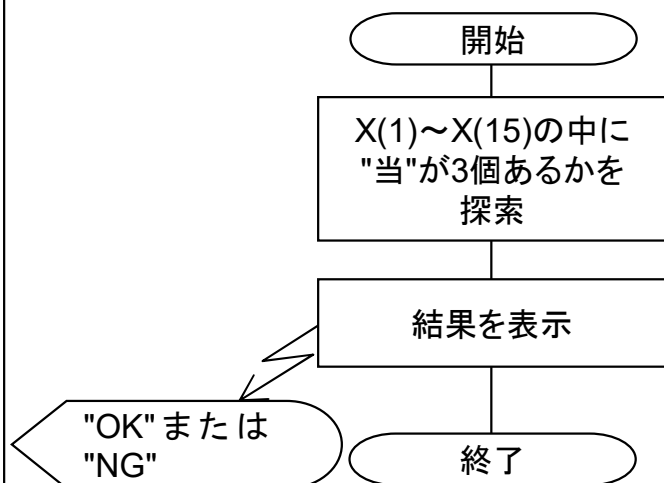
### 【問題】

文字が入力済みの配列 X(1)～X(15)があり、配列の中に"当"が1～3個入力されています。  
"当"が3個必要なので、3個見つかった場合は"OK"を、2個以下しか見つからなかった場合は  
"NG"を表示します。

フローチャートを作成してください。

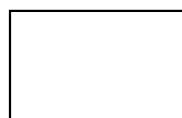
### 【概要図】

### 【結果イメージ】

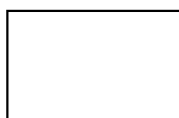


### 【データ領域】

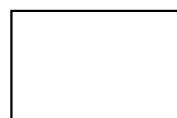
"A"	"当"	"Y"	"U"	"R"	"当"	"M"	"F"	"L"	"Q"	"S"	"P"	"T"	"当"	"J"
X(1)	X(2)	X(3)	X(4)	X(5)	X(6)	X(7)	X(8)	X(9)	X(10)	X(11)	X(12)	X(13)	X(14)	X(15)



W



R



i

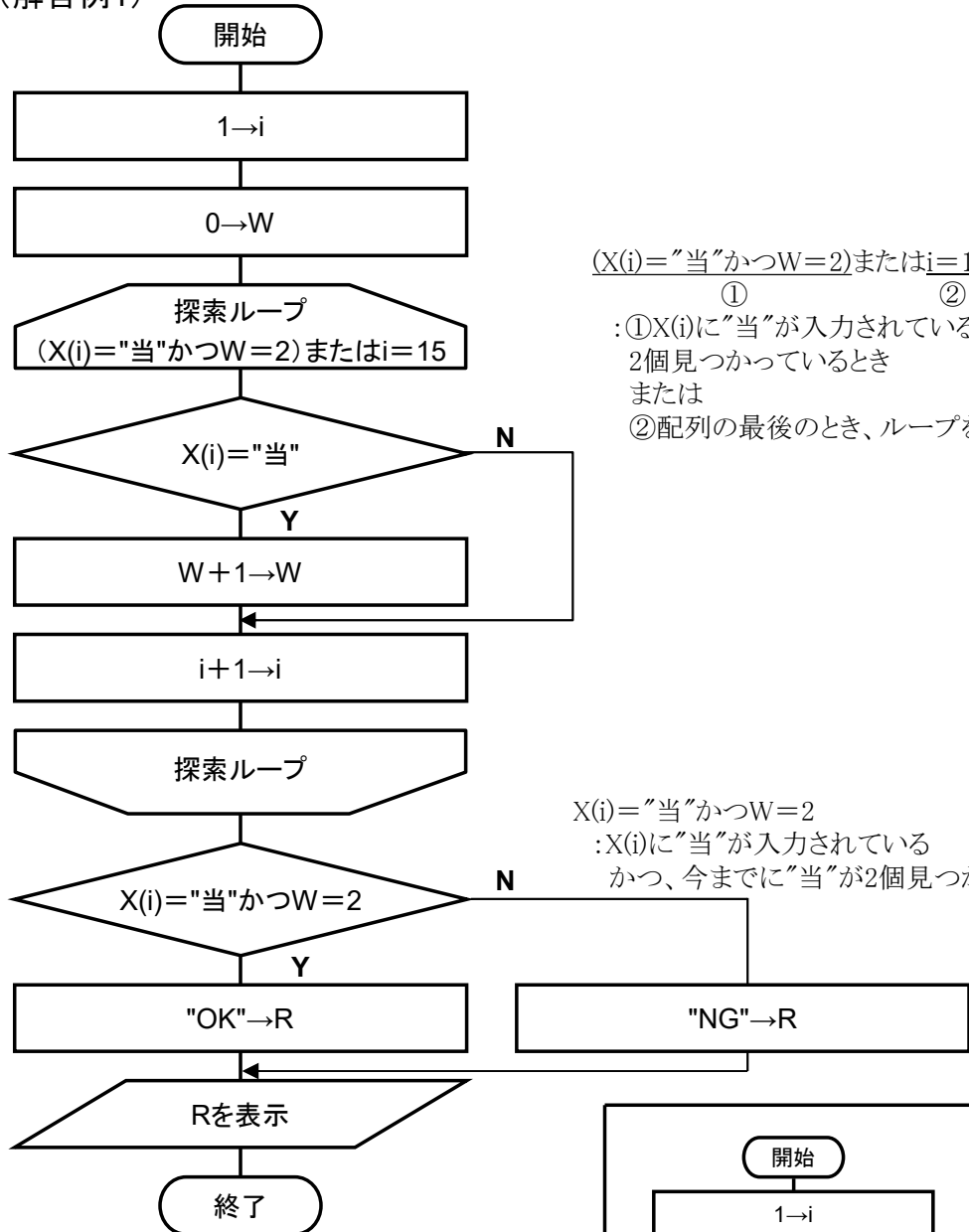
X(1)～X(15) : 入力済みの配列  
W : "当"の個数を数える領域  
R : 結果を代入する領域  
i : 添字領域

### 【補足】

※入力・表示・印刷のレイアウトは処理に含みません。

## 【フローチャート】

(解答例1)



$(X(i) = \text{\"当\"} \text{かつ} W = 2) \text{ または } i = 15$

①

②

: ①  $X(i)$ に\"当\"が入力されている かつ、今までに\"当\"が2個見つかったとき

または

② 配列の最後のとき、ループを抜ける

$X(i) = \text{\"当\"} \text{かつ} W = 2$

:  $X(i)$ に\"当\"が入力されている

かつ、今までに\"当\"が2個見つかったか判断する

(解答例2)のように  
探索ループの条件:  $W = 3$  または  $i > 15$  と  
探索ループを抜けたときの判断の条件:  $W = 3$  も可。  
ただし、 $X(15)$ が\"当\"かの判断をループを抜けて行う  
(解答例1)の方が、ループ回数が1回少ないため、効  
率がよい。

(解答例2)

